襤褸

菊池　泰賀

コンセプト

継ぐ

襤褸は東北・北陸地方などでは、その寒さに耐える主な防寒具は着物などの衣類だけでした。

しかし当時の衣類は非常に高価なものであったため、新調する漁師や農民はおらず、毎日着ているとどうしても肘や裾の部分が擦り切れ、破れてきてしまいます。

極寒の中で生活をする上で、穴が空いた衣類を着ていては寒さに耐えきれなくなるため、麻布やボロ切れ、布団など古くなった服を補強してきていました。

このような精神は現代のサスティナブルに大きく関わっていると感じました。

デザインソース、発想

廃棄のデニムをどのようにすればより長く着てもらえるか。廃棄のデニムをベースに上から刺し子で生地を補強し、着れば着るほどデニムが見えてくるように施しました。

IFD2023-BF-10

作品のデザインの特徴

刺し子で様々な生地を重ね、形はシンプルなダブルジャケット。

素材感をより伝えるため表にはポケットなどのディティールはあえていれませんでした。

作品に使用した材料

ベースとなる廃棄のデニムに、生成の薄い綿生地を重ね、さらに上からデニムに馴染むような配色の綿麻のストライプ生地や、速乾性のある素材や、実際の着物で使用していた生地、コーデュロイなど計11種の様々な生地を重ねました。

技術

様々な生地を刺し子で手作業で重ねて一つの大きな生地を作ってから裁断し、縫製しました。

補強するために細かい針目でデニムの層までしっかり縫い仕上げました。

文化服装学院・高度専門士科4年生